

# 経営比較分析表

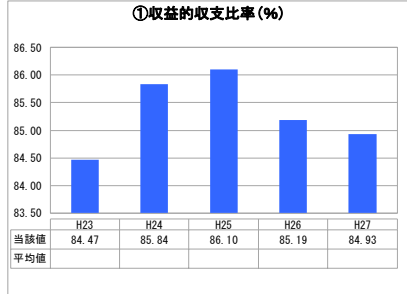
長野県 筑北村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
法非適用	下水道事業	林業集落排水	G2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	
-	該当数値なし	1.50	100.00	3,130

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,893	99.47	49.19
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
73	0.08	912.50

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成27年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



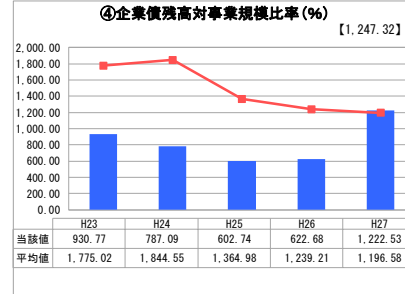
「単年度の収支」



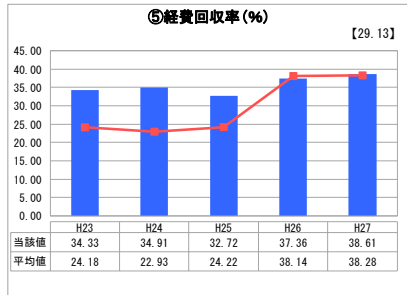
「累積欠損」



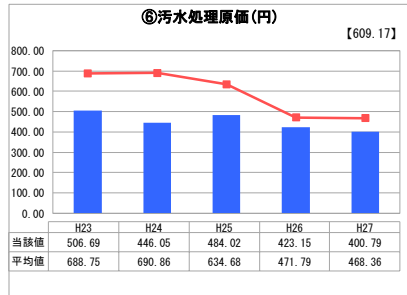
「支払能力」



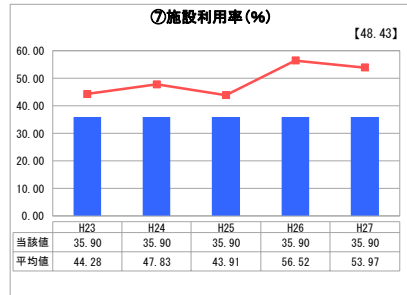
「債務残高」



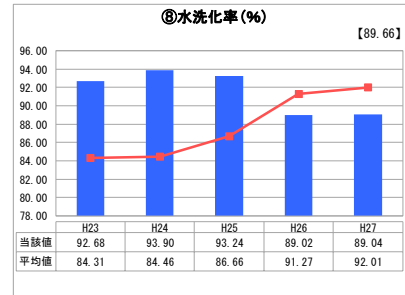
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

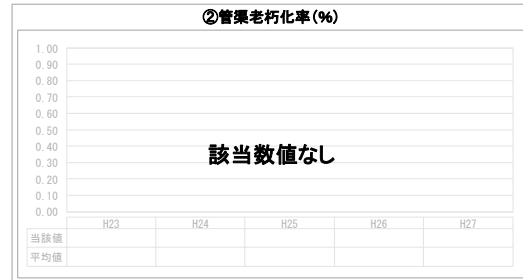


「使用料対象の捕捉」

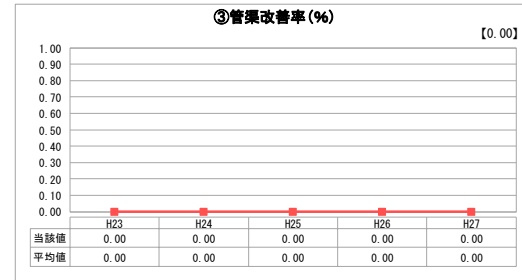
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率：一般会計からの繰入金に依存しているため、経営改善に向けた取り組みが必要である。
- ④企業債残高対事業規模比率：債務残高は減少してきているが、人口減少が進み、料金収入も減ってきており、今後は、適性な料金水準となるよう見直しが必要である。
- ⑤経費回収率・⑥汚水処理原価：汚水処理量が減少しているため、経費が抑えられているが、今後は施設の経年劣化による維持管理費の増加が見込まれる。修繕を計画的に行うとともに、適性な料金収入の確保が必要である。
- ⑦施設利用率：処理区域内人口が少ないため、施設利用率が低い状態にある。
- ⑧水洗化率：処理区域内人口の減少により水準が低迷している。

### 2. 老朽化の状況について

- 林業集落排水処理施設は地理的要因により2施設があり、供用開始から20年経過し、施設の老朽化が進んでいる。
- 平成28年度において現有財産の把握を完了し、今後の長期修繕計画を策定することにより、維持の指標とします。

### 全体総括

- 人口減少が著しく、料金収入が減少する一方、維持管理費の増加が見込まれる。
- 現在、汚水処理費は、営業収益の2~3倍近くかかっているが、今後、維持管理経費分は営業収益で賄えるよう、適性な料金確保に向け、料金の見直しを行う。
- また、施設維持方法等の見直しを行うなかで、農業集落排水処理施設への統合も検討していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。